

# Identification of a Hashimoto Thyroiditis Susceptibility Locus Via a Genome-wide Comparison With Graves' Disease

押領司, 大助

<https://hdl.handle.net/2324/1654722>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



(別紙様式2)

氏名	押領司 大助			
論文名	Identification of a Hashimoto Thyroiditis Susceptibility Locus Via a Genome-wide Comparison With Graves' Disease			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	佐々木 裕之
	副査	九州大学	教授	吉良 潤一
	副査	九州大学	教授	福井 宣規

### 論文審査の結果の要旨

自己免疫性甲状腺疾患である橋本病とグレーブス病は、免疫学的な共通点と相違点を有し、両疾患を区別する遺伝的要素を同定することは、発症メカニズムの差を理科する上で重要な手がかりとなる。日本人の橋本病とグレーブス病について、相関解析による2段階のゲノムワイド比較を行い、*VAV3*遺伝子座内に、ゲノムワイド有意レベルで関連を示す一塩基多型 (SNP) **rs7537605**を同定した ( $P = 3.90 \times 10^{-8}$ )。また、**rs7537605**は健常人と2疾患との比較において、橋本病と有意な関連を認めたが ( $P = 1.24 \times 10^{-5}$ )、グレーブス病とは関連が認められず ( $P = 0.50$ )、橋本病に特異的な疾患感受性を示した。このように、橋本病とグレーブス病を直接比較することで、橋本病に特異的なSNPを同定した。*VAV3*はグアニンヌクレオチド交換因子をコードする遺伝子であり、免疫系との関連を示唆する知見があることから、橋本病発症の分子メカニズム解明の糸口となることが期待される。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行なったがいずれについても適切な回答を得た。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格であると判定した。